

第3学年 保護者の皆様

4月に実施されました『全国学力・学習状況調査』の結果が出ましたので、その結果に基づき、本校の教育課題を明らかにし、学力向上に向けた今後の取組等を次の資料にまとめましたのでご一読ください。

- ◆『我が校の強み弱み分析・評価シート』：本校生徒の強み・弱み及び生活実態分析
授業改善等、本校の具体的な取組内容

なお、分析結果については、全教員が共通理解し、学ぶ力向上策に基づく授業改善等、新たな取組も推進したいと考えております。保護者の皆様もご一読いただき、ご理解・ご協力をお願いします。

【令和7年度『全国学力・学習状況調査』分析結果】

我が校の強み・弱み分析・評価シート

◇ 結 果

《強み・弱み》

【国 語】 平均正答率は、全国と比較してやや劣っていますが、無回答率は同等であり、回答しようという前向きな気持ちが見られました。読むこと（根拠を明確にして考えること）、書くこと（読み手の立場に立ち、文章を整えること）に課題が残りました。

【数 学】 データの活用の単元の理解度は高いことがわかりました。ただ、問題文が読めていなかったり、読み方がわかっていなくて、問題の意図を理解することができておらず、そのことが無回答率の高さにつながっていました。また、思考力・判断力を問う問題や、図形問題、答え方のかたちが決まっていない説明する問題に苦手さを感じている生徒が多く見られました。

【理 科】 日常生活と関連した内容や、過去に例題を解いた経験のある問いについては、正答率が高かったですが、第1学年の地球分野や第2学年の物質分野の内容が弱い傾向にあることがわかりました。また、初見の問題に対するしては、何を問われていて、どのように回答するのか理解できていないことが正答率の低さにつながっていると考えられます。これらのことから、あらゆる状況の中で、既習内容を活用していく力を身につけることの必要性がわかりました。

【課 題】 国語・数学・理科ともに「強み」と「弱み」がはっきり分かれており全国の平均正答率をかなり下回る問題も見られました。また、知識は身につけているものの、文章で表現することや、資料を読み解く力に課題が見られました。

◆ 生徒質問紙

《国語》

- ・ 90%近い生徒が、「国語の勉強は、将来、社会に役立つ」と考えています。また、80%近い生徒が「文章を書くにあたって推敲している」と答えていて、よりよい文章にしようという気持ちが表れているといえます。

《数学》

- ・ 数学自体に対する苦手意識はあまりないようですが、学習したことを活用することや、説明することには苦手を感じていることがうかがえます。

《理科》

- ・ 「理科の勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的な回答が多く見られましたが、「理科の勉強が得意ですか、普段の生活の中で活用できていますか」の質問に対しては否定的な回答が多く見られました。理科は好きではあるが、内容の理解に苦しみ、また、生活の中で自然と学習することは得意であるはずですが、自ら普段の生活と関連させて取り組む姿勢が弱いことがうかがえます。

【生活実態】

1.生活習慣・学習習慣

- ・ 毎朝、朝食を食べてきている生徒、決まった時刻に起床・就寝する生徒が多く、基本的な生活習慣は身につけているといえます。
- ・ 計画的な家庭学習の習慣を身につけている生徒は全国平均よりも低いですが、学校の勉強は好き、得意と感じている生徒は多いです。
- ・ 読書や新聞を読む時間は全国平均より少ないです。
- ・ タブレット端末の効果的な活用については、全国平均を大きく上回っています。

2.自己有用感・学校満足度

「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある」と答えた割合は全国平均と比べて高く、大人を信頼し、安心して学校生活を送れていることがうかがえます。

3.規範意識

「いじめはどんな理由があってもいけない」と答えた生徒の割合が高く、規範意識を持った生徒が多いことがうかがえます。

指導の充実に向けて

本校では、「心豊かでたくましく社会を生き抜く子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、確かな学力を身につけるために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、学び合い学習の進化と効果的なタブレット端末の活用を軸とした授業改善に取り組んでいます。学校での「協働的な学び」や「タブレット端末を活用した学習」が定着してきており、その取組に生徒は満足していて、学習の意欲や理解につながっています。

一方で、家庭ではスマートフォンの利用機会が増え、家庭学習の時間に大きく影響しています。また、新聞を読む機会や読書に費やす時間の減少が見られ、家庭学習の定着が課題です。

このような本校生徒の実態を鑑み、今年度の全国学力・学習状況調査の結果に基づいて授業改善を進め、家庭や地域と連携・協働しながら特色ある学校づくりを推進し、次代を生き抜く力を育むよう支援していきたいと考えています。

■学力向上策について

【国語】

- 「論理的に考える力を養い、自分の思いや考えを広げ深めること」を目指して、他者との関わりの中で力を培っていく。
- 作文やプレゼン発表の中で、自分の考えを確かにし、相手に効果的に伝えられる力をつけていく。

【数学】

- 自分の考えを書く場や説明し合う場を設ける。必要に応じて、考えるための答えを導く手順を、図や表、文章で書き表す学習活動を行い、筋道を立てて考えることができるようにする。
- 学習課題に習熟したり、求め方を工夫したりすることができるように反復学習を行い、基礎基本の定着を図る。

【理科】

- 授業内容の理解、普段の生活の中での活用することが課題として挙げられたので、授業では、日常生活の中にある理科を取り上げて進めていき、日常と関連させた授業づくりを行っていく。

■家庭における学習対策

【国語】

- 家庭での読書の奨励や、読書週間の利用、図書の知識提供等を行い、読書紹介や読書感想文を長期休業の課題とする。
- タブレット端末によるeライブラリでの問題等を用いて復習を行い、知識の定着を図る。。

【数学】

- 授業中に、現時点で取り組む事ができるワークのページや問題を具体的に提示し、家庭学習に取り組むように声をかける。家庭学習に取り組むことが難しい生徒には個別に対応する。

【理科】

- 家庭学習用の課題を設定するなどして、家庭学習を行う習慣を身につけさせる手立てを取る。